

授業科目名	小児看護学Ⅰ（概論）	担当教員名	大藏 サチ子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●－必修・○－選択			
授 業 の 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>小児看護の対象である子どもと家族についての理解を深め、小児看護の概念と役割を学習する。また、子どもと家族を取り巻く環境から起こりうる問題をとらえ、小児看護の在り方について考察を深める。小児保健・福祉政策の動向を学習することにより、子どもと家族の健康増進の支援についても考察する。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児を取り巻く環境について理解できる。</li> <li>2. 小児の権利について考えることができる。</li> <li>3. 小児の成長・発達について理解できる。</li> </ol>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容					
第 1 回	子どもを取り巻く環境とその影響：子どもとは、家庭環境、社会環境など					
第 2 回	子どもの環境と安全：子どもの発達、生活環境、起こりやすい事故とその対策					
第 3 回	小児看護の理念：小児看護の変遷、小児看護の特徴、役割など					
第 4 回	子どもの発達の評価：成長・発達とは、成長の評価、発達の評価など					
第 5 ～ 9 回	各期における子どもの発達：新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の身体的発育と機能的発達、栄養					
第 10 回	子どもに関連する諸統計：人口構造、出生、子どもの死亡など					
第 11 回	子どもに関連した法律と保健行政：母子保健など					
第 12 回	子どもの権利と倫理：子どもの権利条約、インフォームド・コンセント(アセント)、児童虐待、病気の理解、認識など					
第 13 回	在宅療養中の子どもの看護：障害を持つ子どもとその家族、地域との連携など					
第 14 回	病弱教育：病弱・身体虚弱児の教育、肥満や心の問題とその対応					
第 15 回	子どもの遊びと生活：遊びの意義、発達段階別の遊びなど					
第 16 回	国際的にみた子どもの健康：子どもの病気とその予防、予防接種など					
第 17 回	まとめ					
成績評価の方法	出席状況，課題レポート，学期末試験					
テ キ ス ト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論，医学書院					
参 考 図 書	講義中に適宜紹介する					
履修上の留意点	対象の理解のために、1年次に学んだ人体構造機能学Ⅰ，Ⅱ，法と人権などを復習しておいてください。子どもの心と身体に理解に関する科目が少ないため、自主的に学習することを望みます。					